

東國太平記 四

庫文閣内	
天	和
内閣文庫	
番號	和 8789
冊數	18(5)
函號	168 352



東國太平記卷之四目錄

上杉景勝白川表軍兵手配之事 第一葉

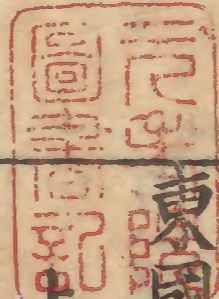
直江山城守兼續以謀越後國諸率人

催一揆事 第七葉

上杉伊達矢合之事 第九葉

御所會津御發向

附 花房志摩守注進之事 第十葉



東國太平記卷之四目錄終

東國太平記卷之四目錄終

東國太平記卷之四

○上杉景勝白川表軍兵手配之事

景勝行ニハ會津ヨリ白川マテ十四里其道ニ筋ノ内南山口ハ殊ニ切所ナリ會津ヨリシテ四里餘リナレ凡ハ馬ヲ出スニ羽太鶴生ノ難所アツテ宜シカラス此ユヘニ朴坂ヲ斫塞根子鷹助へ路ヲ付黒川郡ヨリ白坂ノ西へ出ル此道へハ本庄越前守繁長八千ノ勢ニテ働クベシ今一筋ノ道ハ背灸ノ山ヨリ勢至堂長沼井伊出ヲ過テ白川ニ至ル此道人數ヲ出スニ宜シ背灸リヲ登這坂ト云節所十町ハ

東國大平言卷之四
カ
リ
有
テ
。
峠
ニ
上
ル
。
峠
ノ
絶
頂
ニ
上
レ
バ
。
會
津
領
ハ
。
目
ノ
下
ナ
リ
。
西
北
ハ
出
羽
國
。
湯
殿
山
羽
黒
山
秋
田
酒
田
ノ
海
ヅ
ラ
。
西
南
ハ
越
後
本
庄
出
雲
崎
ノ
山
々
見
ヘ
ワ
タ
ル
。
則
背
灸
リ
ノ
峠
ニ
土
矢
倉
ヲ
立
テ
。
大
筒
野
烽
ヲ
籠
タ
リ
。
又
只
今
マ
デ
ノ
白
川
海
道
蓑
澤
口
ハ
。
左
鞞
右
鞞
ト
云
フ
大
節
所
ア
ツ
テ
。
關
東
ノ
大
軍
一
度
ニ
攻
入
事
成
ガ
タ
シ
。
菟
角
關
東
ノ
御
父
子
ヲ
思
ヒ
ノ
マ
、
。
白
川
表
革
籠
原
へ
引
付
ザ
ル
ニ
ヲ
イ
テ
ハ
。
十
分
ノ
勝
ヲ
得
ガ
タ
シ
。
左
鞞
右
鞞
ノ
山
ヲ
斫
崩
シ
。
蓑
澤
海
道
ノ
往
還
ノ
路
ヲ
塞
ギ
。
ソ
レ
ヨ
リ
西
ニ
里
バ
カ
リ
。
塙
ノ
明
神
白
坂
ノ
道
ヲ
作
リ
。
關
東

ノ
御
勢
ヲ
。
白
川
表
革
籠
原
へ
引
入
ン
タ
メ
。
近
邊
ノ
在
々
里
々
ヲ
燒
ハ
ラ
ヒ
。
山
林
竹
木
ヲ
切
取
道
ヲ
作
リ
。
地
ヲ
帶
三
里
四
方
一
面
ニ
壘
ノ
上
ノ
如
ク
ニ
シ
テ
待
カ
ケ
タ
リ
。
白
川
城
ノ
西
南
へ
引
マ
ツ
シ
。
谷
田
川
ト
云
フ
溪
沼
ア
リ
。
其
長
サ
二
里
餘
リ
。
其
東
南
ニ
革
籠
原
ア
リ
。
ソ
レ
ヨ
リ
西
方
一
里
バ
カ
リ
ニ
西
原
ト
云
野
ア
リ
。
直
江
山
城
下
知
二
テ
。
中
畑
ノ
浪
人
蕪
木
ト
云
者
酒
桶
二
千
程
取
ア
ツ
メ
。
地
ト
ヒ
ト
シ
ク
。
西
原
ノ
野
ニ
並
べ
埋
メ
。
黒
川
郡
ヨ
リ
逢
隈
川
ヲ
其
上
へ
切
流
タ
ル
ニ
。
水
流
野
ノ
上
へ
流
ツ
。
大
河
ニ
臨
カ
コ
ト
シ
。
革
籠
原
ノ
東
ニ
關
山
ト
イ
フ
松
山
ア
リ
其

繁二里餘。白川ノ城下マテ連リタリ。是ニ中条越前
守。長尾權四郎。山本寺庄藏。大崎筑前守。長井丹後守。
田原左衛門。也邊長門守。黒川右衛門。齊藤下野千坂
對馬。飯森攝津守。小田切治部。長尾兵衛尉。村上國清。
鳥山因幡守。竹俣參河守。吉江中務。諏訪邊次郎。右衛
門平賀志摩守。沼掃部ヲ陣取セ。白川ノ城ヲ丈夫ニ
拵ヘ。安田上総介順易。嶋津左京進。入道月下齋ヲ太
將トシテ。人數四万。是ニ屬ス。一番合戰ハ安田上総
介。二番合戰ハ。嶋津月下齋ト定メ。先本庄越前守繁
長。其子弥次郎。其時改名シテ出羽守ト号ス。此父子

御強ノ兵八千ニテ。南山口ヨリ朴坂ヘカハリ。根子
鷹助ヲ過。白坂ノ西ニ至リ。父繁長ハ四千餘ニテ。此山
ニ伏シ。其子出羽守四千ニテ。野州蘆野邊ヘ打テ出
嗣君御着陣候ハ。熊ト一合戰シテ。颯ト引取ヘシ。
御勢勝ニ乗テ追來。白坂ヲ過テ推込給ハ。革籠原
ニテ。待ウケ。一番合戰ヲ安田上総介。二番合戰ヲ嶋
津月下齋仕ルヘシ。是又譜代二万ノ兵ニ也。侍ヒ四
万ナレバ。奇手大軍ニテモ。ヤハカ容易打。景
勝ハ兼テ背家ノ峠ヲコシ。勢至堂ヲウシロニシテ。
長沼ニ待カケ。ソレヨリ古田川布馬瀬ニウツリ。革

籠原ノ合戦半ニ。關山ノ陰ヲマワリ。小井堀老野髪
ヲ過テ。嗣君御陣ノ後ヘマワリ。景勝旗本ヲ以テ切
テカ、リ候時。關山ヨリ。中条千坂山本寺。公木等横
合ヲ入ツ。安田嶋津ト揉合スベシ。然則人。景勝旗
本ニテ推カ、リ。前ニハ安田嶋津切カ、リ。關山ヨ
リ千坂齋藤中条竹俣等横鎗ヲ入バ奇手ノ大軍ハ。
是非ヲ論ゼズ。白川ノ城ノ西南ニ向テ。谷田川ノ沼
ヘ雪類カ、ルベシ。其時三方ヨリ驅立大將軍ヲ谷
田川ノ深沼ヘ追込ベシ。此沼ハ二里餘リニテ深事
底ナシ。若御人數馳入則ハ人モ馬モ助ルモノ下人

モナカルベシ。谷田ノ沼ヲ遁シ。西へ落敵ハ。又西原
ノ野川へ逃掛ルベシ。本庄越前守繁長四千ニテ南
ノ山ヨリ。鎗ヲ入。弥西原へ追カケヨ。奇手ハ川ト心
得人馬渡カ、ラバ。埋置タル酒桶へ馳込盡クホ口
ブベシ。其時佐竹ノ先勢澁井内膳ハ五千バカリニ
テ御大將御父子ノ間ヲ取切ベシ。御所ハ御先ノ嗣
君御合戦始ラル。ト聞召候ハ。急テ鬼怒川ヲ渡
テ推來リ給フベシ。其左右ヲ聞バ。直江山滅手勢一
万。牽人二万バカリニテ。會津山ノ内ヨリ出。高原鹽
原ヘカ、リ。奈須嵩ノ麓高林。加野原。八田地ヨリ佐

久山。大田原ノ間へ打テ出べし。佐竹勢梅津半右衛門戸村豊後一万余ニテ富田道場宿ヨリ石井ノ渡リ。姫井筋へ押通り是モ佐久山。大田原ノ間へ推出し。相圖ノ野烽ヲ擧。直江山城上。東西ヨリ御所ノ旗本ヲ立ハサシ。真中ニ取籠打取べし。此間一里半ノ所野山森林。深田多し。御所ノ御人數案内ヲ知ラズ。沼澤へ馳入。爰彼ノ谷崖へ墜過半爰ニテ討ルべし。然則ハ御所ハ江州ノ方へ志し。除夕マフトモ。烏山。千本口。鬼怒川ノ難所アリ。其上直江梅津戸村ガ勢跡ヲ取截推來リ攻立バ。是非ヲ論ゼズ御所勢ハ奈須

湯ノ嵩ノ方へ除べし。其時佐竹義宣ハ棚倉ヲ打テ出強梨伊王野へカ、リ。蘆野口へ推出し。澁井内膳ト手ヲ合セ。直江山城梅津戸村ト立夾。御所ヲ真中ニ取籠打取べし。是ハ手ニ餘リタル時ノ事。大方ハ箒川ヨリ。南ニテ打取申べし御所サへ討奉。天下ハ圖ニ足スト。景勝ト。直江内談シテ。何トゾシテ。御所御父子ヲ思ノマ、ニ。白川表へ引入度十ノ評定ノ外ハナカリケル。景勝ハ自身只一騎歩士ニテハニテ。編ニ會津ヲ出。背炭山へ登。這坂ノ峠ニ馬ヲ立。山川ノ形勢ヲ考へ。ソレヨリ勢至堂へ下リ。長沼へカ、リ。

伊井出古田川布馬瀬關山小井堀老野髪へ出寄兵
ヲ廻ベキ道筋ヲ見ツモリソレヨリ白坂塚ノ明神
マデノ間ヲ樵夫ヲ案内者トシテ山中ノ道ヲ通り
人モ知ザル山路ヲ過塚ノ明神マデ乗マシソレ
ヨリ鷹助根子朴坂へマハリ南山口ヲ經テ又會津
へ歸レケリ是ヲバ世ノ人曾テ知サリキ數个年ノ
後上杉ノ家老共バカリ仄聞ケルトカヤ景勝了簡ニ
ハ御所御父子ヲ白川口へ引受景勝旗本ニテ潛ニ
山中ノ道ヲマハリ寄手ノ後へ出御所御父子ノ御
旗本へ切カハリ谷田西原ノ溪沼へ追込一人モ洩

サズ討取ベシ疾雷不及掩耳處也トテ御所御父子
ヲ選トゾ待カケタリ若此時御父子白川表御取懸
候ハ。十ニ八ハ御大事ニ及ブベシ。五一御利運ニ
候トモ御人數過半討ルベシト兼テ勝負料レケル
○直江山城以謀越後諸軍人催一揆事
石田三成直江山城守先年ヨリ相謀北國筋ノ手立
ヲ相談シケルニ直江申ケルハ謙信景勝兩代ニ勳當
ヲ蒙リ越後ニ蟄居スル浪人共ヲカタラシ一揆ヲ起
サセ申ベシ齊藤八郎ハ赤田邊ニ起リ柿崎參河守
ハ下濱邊ニヲコリ安田平八矢尾板主膳丸田左京加

地石馬助謙信 万貫寺源藏七寸五分監物等ハ妻有
 庄田川下倉新發田本庄五泉分隄川水戸橋本椽尾
 三条邊ニ旗ヲ揚候ハバ彼堀久太郎秀治溝口伯耆
 守宣勝村上周防守義明モナジカハ攻亡サテ置ヘ
 キトテ延田清六ト云者ヲ治部少輔方ヨリ越後へ
 下シ本望ヲ違スル上ハ本領ニ加増シテ遣スベキ
 トゾカタラシケル皆一儀ニモ及バス同心シケル
 越後率人ノ内宇佐美民部少輔勝行ハ其父宇佐美
 駿河守定行代ニ柏崎ノ城ニアツテ永正七年以上杉
 顯定妻有庄長森原合戦ニ討死ノ後長尾爲景ト取

合上越後ハ長尾爲景打隨へ府内ニ在城長尾越前
 守政景ハ上田ノ城ニ在テ其筋南越後ヲ越中ノ諸
 丸ニテ手ニ入宇佐美駿河守定行後改ハ柏崎ノ城
 ニ楯籠リ寺泊山雲崎新縣ヨリ出羽ノ庄内沖野ニ
 テ打隨へ旗下ニシテ大永元年マデ十年餘リ支配
 セシユヘ柏崎ヨリ庄内マデ片濱ノ分ハ皆宇佐美名
 流アリシカバ三成直江ヨリモ別シテ宇佐美民部
 ニ一揆ヲ勸メケルニ民部所存ハ代々上杉家ニテ
 ハ曾祖父宇佐美能登守定興法名道庵後土御門院
 祖父越中守孝忠初盛父駿河守ニ至ルマデ誰ニ劣

候ハシヤ。然レ庄駿河守定行不慮ノ仕合ニテ永祿
七年七月五日ニ景勝ノ實父長尾政景ト信州野尻
ニテ打果シケルユヘ。跡目断絶我モ十五歳ヨリ浪
人セシニヨリ。一度謙信景勝御勘當赦サレ上杉家
ヘ歸參セント望思ヒ忍テ出陣ノ供イタシ。景勝目
通ニテ度々高名セシカレ。遂ニ召還サレズ。此事骨
髓ニ徹シ。愁ニ存候ユヘ。何トゾイタシ。上杉家ヘ一
奉公仕リ。歸參ヲコソ望候ヘ。一揆ヲ起シ申ベキ所
存ニ無之トテ。此段直江方ヘ申遣シケレバ。衣至極
ナル心底ナリト返答セシユヘ。六月中旬ニ。宇佐美

民部少輔勝行。嫡子藤三即定賢時十六歳後号兵左衛門尉。次男
造酒助勝貞時十一歳号大菊丸。父子ニ人家人上下百八十餘
ニテ津川口ヨリ。會津ノ城ヘゾ籠リケル。殘ル輩ハ
皆越後ニ在テ一揆ノ内談行ノ評定ニテ油断ハ更
ニナカリケル

宇佐美駿河守定行後改定滿ハ永祿ノ初信州野尻ニ
在城シ。武田信玄ヲ屢ヘケル。駿河守ガ嫡子左太
郎定勝隠シナキ大剛ノ者ニテ人數ヲツシ。川中
嶋ヘ働キ。栗田ト芋川ニテ合戦。打勝テ善光寺
ヲ攻破リ永祿二十七年七月十日也。如來ヲ奪取。野尻ヘ歸城セ

シテ粟田様々懇望シ八百貫ノ所領一説ニ千石ノ所ナリト宇佐美方へ遣シ。如來ト替物ニシテ善光寺へ取戻シケリ。永祿五年七月十日ニ宇佐美左太郎定勝時ニ造酒助ト号ス十七歳武州上尾ニテ北条氏邦ト一戦シテ討死セリ。世人善光寺如來ノ御罰ト申傳ル。左太郎弟ハ此宇佐美民部ナリ。

○上杉伊達矢合之事

政宗ステニ京都ヲ打立タル由申來ケレバ家臣片倉小十郎伊達成實濱田治部太輔七千餘ニテ打立六月二十三日ニ上杉領築川ノ城へ推寄ケル。築川

ノ城主ハ須田大炊助長義ナリ。會津ヨリ横田大學ヲ加勢ナリ。佐竹ヨリ車野丹波守馳加ル。元ヨリ前ノ大崎ノ屋形義隆モ須田手へ加屬ナリ。鬼生田大膳金子美濃守。大塔小太郎墨谷太郎左衛門。嶋倉孫左衛門。築地修理猪狩玄番二千餘ナリ。須田長義并三歳ト云ル。父相模守ニ劣サル大剛ノ兵ニテ。此旨ヲ聞ト均ク大枝ト云所へ逆寄ニ切テカマリケルニ。政宗勢モ取合セ。弓鉄炮ニテセリ合ケレドモ。伊達勢備へ色アシク推立ラシ。總敗軍ニ及ブベキヲ。成實ト片倉ト。敵味方ノ間へ乘込引取ケリ。須田大炊

壬長追也。甲付ノ首十八討取、築川へ引入ケリ。是
ヲ後、テ。上杉伊達ノ鉄炮矢合也。境目ノ手切初メ
十八申傳ヘケル

○御所會津御發向附花房注進之事

去程ニ御所ハ六月十六日ニ大坂ヲ打立給ヒ伏見
ノ城ニ一日御逗留十八日ニ伏見ヲ御立ニテ七月
二日ニ江戸へ御歸城アリ。後陣ヲ待汰へ給フ。同月
十九日ニ御先手トシテ。嗣君軍兵四万三千ニテ江
戸ヲ討立會津へ向ヒ給フ。相伴フ人々ニハ結城少
將秀康後号越前黄門、浦生飛騨守秀行、皆川山城守廣照、松

平下野守忠吉御所ノ四男 後号薩摩守、成田左衛門、佐泰喬、仙石越

前守秀久、森右近、大夫忠政、日根野徳、太郎師弘、石川

玄番頭康正石川伯耆守 數正子、奥平飛騨守忠昌、松平下総守

忠明、井伊兵部少輔直政、本多中務太輔忠勝、多賀屋

左近、大夫朝宗、水谷左京大夫勝通、山川民部丞將貞

佐野修理大夫信吉、里見安房守義康等トゾ聞ヘケ

リ、其中ニ榊原式部、太輔康政ハ先年九戸陣御勝軍

ノ吉例ナレバトテ會津口ノ先陣ヲゾ仰付ラレケ

ル。十九日辰ノ刻ニ大將江戸御立アリ。行列馬物具

ノ結構光耀キ目ヲ驚セリ。御勢雲霞ノ如ク見ヘタ

リケル。同廿一日ニ御所ハ三万八千餘ニテ。江戸ヲ
 立セ推セ給フ。江戸御留守ニハ御舎弟松平因幡守
 康元石川日向守家成ナリ。町奉行ハ板倉四郎右衛
 門勝重并二代官ハ伊奈熊藏忠次同江戸ニ指置レ
 ケリ。其夜ハ鳩谷ノ城ニ御着陣。是ニハ阿部伊豫守
 罷在御馳走申上ケリ。廿二日ニハ高力河内守居
 城岩槻へ御着。廿三日ニハ小笠原信濃守秀政居城
 古河ニ御馬着。廿四日ニハ小山ノ城ニ着セ給フ。嗣
 君ハ八里先ノ宇都宮ニ御着陣アリケレバ。野モ山
 モ旗ノ手ヲ靡シ。軍兵ナラスト云フ所ナシ。佐竹義

宣ハ兼テ上杉一味ナレバ。去六月下旬ニ家老梅津
 半右衛門戸村豊後守ヲ大將ニテ五千餘ノ勢ヲ奥
 州南ノ關ヨリ打入シカバ。東館關岡寺山川上野山
 浅川石川竹貫仁井町蓬田滑津赤旗管野三森高城
 鹿嶋完倉小川行方信太新張玉造竹田手賀ノ諸率
 入此手ニ馳加リ。其勢數千ニ及フ。滋井内膳二千餘
 ニテ。寺山鐘城ニ着ケレバ。河内或ハ河内。式部内。屋代
 櫻岡仁井田小井堀老野髮兼澤近邊ノ率人共吾モ
 ワレモト馳加リケレバ。胃ノ緒ヲ縮タル兵二万三
 千餘人。其外殿原步侍野伏等八九四万餘トソ注ケ

ル。佐竹義宣モ水戸ヲ打立。奥州南ノ關。大城ヨリ打
入。伊香^{イハ}臺^{ダイ}宿^{シュク}ヘカ、リ。棚倉^{タナクラ}ニ陣ヲ取。景勝^{キョウセイ}へ使者ヲ
立ラレケレバ。上杉勢モ會津ヲ打立ケリ。既ニ安田
上総介。嶋津^{シマツ}月下齋^{ゲカサ}四万ニテ白川ノ城ニ來ル。本庄
越前守モ八千ノ軍兵ヲ卒シテ。南山口ニ打テ出。朴
坂ヨリ根子^{ネコ}鷹助^{タカノサケ}ニ陣ヲ取。千坂對馬守。齋藤^{サイドウ}下野守。
齋藤朝^{サイドウアサヒ}毛利上総介。高梨源五郎。松木内匠。長尾權四
信子^{ノブコ}。即中条越前山本寺庄藏泉澤河内守。清野助^{シヨノサケ}ニ即市
川左衛門。山浦源五郎。木戸監物。村上源五郎。國清^{クニナガ}清
子^{ノブコ}也。邊長門沼掃部。松川大隅守。其槽加賀守。其槽近
江守子

竹俣參河守。須加宇右衛門。山岸宮内。柏崎日向守。山
詰小次郎。桃井右近。神藤出羽介。黒川右衛門等ハ革
籠原ヲ西南ニウケ。關山近邊ニ陣ヲ張。直江山城守
兼續^{カネツグ}二万餘ニテ。右城山ノ内ヲ立。高原ニ陣ヲ取。御
所鬼怒川ノ渡ヲ越給。左右今ヤトコソ待懸タル上
杉勢ハ過半ハ謙信時代ノ兵共ナレバ。事共セス。早
ク御着陣アレカシ。真中ニ追取籠。一人モ洩^{モラス}マジト。
胃ノ緒ヲト。弓鉄炮ヲ汰ヘ待カケタリ。七月廿四日
小山ニ御着アツテ。嶋田治兵衛ヲ御使者トシテ。常
州水戸へ遣ケレバ。義宣ハ爰ニハ居ラレス。奥州棚

倉二在陣セラレシガ留守居ノ家老共指ハカラテ
義宣病氣ユヘ對面仕ラザル由申ケリ。嶋田ハカナ
ク家老共ヘ申渡シケル。御所此度秀頼公ノ御名代
トシテ。會津征伐ノ爲。小山ニ着陣候間。義宣モ早々
軍兵ヲ卒シ。先手トシテ。會津ヘ働カルベク候。若同
心無之ハ。景勝同意ニ謀伐仕ルベキ旨申サレ候由
演ケレバ。義宣返事トシテ。家老共申ケルハ。義宣事
全ク御所ヘ對シ奉リ宿意無之候。但シ會津口ノ御
先手ハ御免下サルベク候ハ。妻子ヲ大坂ニ指置候
由返答ナリ。嶋田小山ニ歸リ。此旨申上ケレバ。御所

弥佐竹逆心ヲ聞及居ラシ。御手當ノ御相談有ケル。
爰ニ宇喜多中納言秀家ノ家人花房助兵衛ト云者
去年大坂ニテ秀家ノ家中大ニ騷動。宇喜多左京戸
川肥後守。花房志摩守等一味イタシ。出頭人松田次
郎兵衛ヲ追出し。嗾訴シケル答ニテ。助兵衛モ流人
トナリ。佐竹許ニ預ラレ罷在候ガ此度水戸ヲ忍出
小山ヘゾ馳參リケル。此時御所ノ御陣中ニテハ白
川口ヘ攻入候時。佐竹大軍ニテ御後ヨリ取カツ。ハ
キ由取沙汰アツテ。其説云止ス。陣中穩ナラサリケ
ル。御所ハ花房ヲ召イカニ。花房佐竹義宣敵對ト見

ヘタリ。但切テ出ベキカ。出間敷カト御尋アリ。花房
 畏テ義宣事極テ律義ナル仁體ニテ候間。中々切テ
 出申ベキ様子トハ存ゼスト申上ル御所重テ左候
 ハ。義宣ハ豎ク出ベカラサル旨。汝誓紙ヲ書差上
 申ベキ旨仰セラレケルニ。花房承リ人情ノ反覆父
 トレテ子ノ心ヲ知ラズ候ヘバ。佐竹堅ク罷出間敷
 トノ誓紙ハ御免下サレ候ヘト申上ケレバ。御所御
 機嫌悪カリケル花房退出ノ跡ニテ御所宣ヒケル
 ハ。花房ハ武功重累ノ侍ト聞ツルガ左程ニモナシ。
 殊ニ大將ノ器量ハ思モ寄ラズト仰セラレケルヲ

一 座ノ人々ハ心得又顔ニテ罷在ケルトカヤ
 後花房助兵衛江戸ニテ病死スル砌申ケルハ。口
 惜モ名大將ニ向テ。不覺ヲ申。一代御見限ヲ蒙リ
 ケル事ヨ其子細ハ先年小山御陣ニテ。御所我等
 ヲ召。佐竹ハ出張致スベカラス候旨。誓紙ヲ仰付
 ラレケルニ。我愚蒙ニシテ思召ノ旨ヲサトラス
 誓紙ヲ書テ上サリケルユヘニ御見限ヲ得。一生カ
 ヤウニ沈淪セシ事後悔アマリアリ。誠ニ名大將ニ
 仕奉ル士ハ。一言一行ニ心ヲ盡サスレテハ叶フ
 ヘカラス。我其時御意ニ隨ヒ誓紙ヲ仕リ指上候

上ニ。佐竹出張イタシタリ。臣我何ノ誤リナラン
ヤ。其時分景勝強大ノ軍兵ニテ。會津ニ待カケ。佐
竹モ亦逆心シテ。後ヨリカ、ラバ。御所ノ御人數
敗軍仕ルベキトテ。陣中雜説ハヤリテ。士卒モ安
心モナカリシニ。我佐竹ヨリ參リ。義宣出ベカラ
ザルノ旨誓紙ヲ書上候ハ。花房能々佐竹出勢
仕ルベカラザル内證ノ實ヲ知タレバコソ。誓紙ヲ
書上タルラメトテ。陣中ノ雜説静ラントノ御謀
ナリケルヲ。我愚ニテ察セザリケル事。冥途マテ
ノ怨ナリト申ケルトカヤ

佐竹留守君ノ家老共。御所小山ニ御着陣アツテ。嶋
田治兵衛御使者ニ下サレケル旨。奥州棚倉へ早飛
脚ニテ申遣シケレバ。例ノ定ラヌ癖ヲコリテ。義宣
モ思案出來ケレバ。棚倉ヲ陣拂ヒ。臺宿ニ馬ヲ立
世上ヲ見繕ヒ申サレケル所へ。重テ古田織部正重
勝ヲ御使者トシテ水戸へ下サレケリ。留守居ノ者
トモイツハリテ申ケルハ。義宣ハ是ヨリ五里北ノ
大田ノ城ニ罷有候ト申ケレバ。古田承リ。左候ハ。義
宣御歸マテ。是ニテ相待申ベキ旨ニテ逗留ス。此
旨臺宿へ注進申ケレバ。古田ハ茶道ノ師匠ナリ止

事ヲ得ズシテ。臺宿ヨリ水戸へ歸ラレケレハ。梅津
 半右衛門。戸村豊後モ。其時ハ岩瀬郡蕪木ノ砦ヲ攻
 テ居タリケルガ。御所小山へ御着陣。義宣モ水戸へ
 引返サレケルト聞テ。圍ヲ解テ。水戸へ引入ケリ。云甲
 斐ナキ義宣ノ仕方ナリケリト。沙汰セヌ者モナカ
 リケル。元ヨリ父義重ハ大田在城ニテ御所へ一味ナ
 リ。義宣モ運ヲ兩端ニ伺レケリ。

傳曰太閤秀吉公ノ寵臣石田治部少輔三成ハ江州
 石田村ノ地士佐五右衛門ト云者ノ子ナリ然ニ
 佐五右衛門久ク此處ニ住ケレハ。村邑ノ長トツ

称シケル或時ニ其妻懷妊シタリケルカ月満ス
 ル比ヲヒニ。煩惱テ既ニ死ニ及バントス爰ニ同
 國長光寺ノ觀世音ハ。昔シ聖德太子ノ夫人産ノ
 蓐ニ向ハセ給フ時ニ。甚々若シ疾給ヒテ。百肢千
 節モ碎零ルガ如クニテ。泣悲ニ玉ニ祈願アラセ
 ケルニ。觀音即チ大光明ヲ放テ。夫人ノ家ヲ照シ
 玉ヘバ。誕産安全ナリレヨリ。長光寺トハ名ツケ
 タリ。是ヲ念テ佐五右衛門彼觀音ニ參詣シ種々
 ノ願ヒヲ結ビケルガ。即時ニ安産シケルコソ不
 思議ナレ。即チ名ヲ佐吉ト付テ限ナク寵愛シケ

民部可招を以尙追て可入以恐惶謹言

七月十四日

法於少補之成

東江之傳也

斯テ三戌ハ佐和山。大垣ノ城普請文夫ニ思ノ
儘ニ塹壘ヲ堀立。武具馬具兵糧矢種玉藥ニ至ル
マデ山ノ如クニ調ヘテ。諸方ニ觸ラナシ。浪人ヲ餘
多抱置謀叛ノ用意トソ聞ヘケル。偕又京都ヨリ
似爲金匠ノ上手ヲ尋出し。佐和山ヘ呼寄テ。金銀
ヲ數レク拵ヘ置。旗ヲ舉馬ヲ馳セシ時ニ望ンテ
足輕以下町人百姓等ニ褒美ノ爲ノ用脚ニ兼テ

ノ計策ナリトカヤ。帷幄ノ籌策既ニ成テ勝コト
ヲ千里ノ外ニ得タリト。三成獨笑ラゾナシニケ
ル。偕大谷刑部吉隆ガ許ヘ使者ヲ以テ申ケルハ。
近比御苦勞憚リニ候ヘ。相談ノ事急ナル儀候
間。愚城ニテ來駕ニ於テハ。千万身ニ餘リテ辱ナ
ク思フベシト懇ニ云遣シケル。折節刑部モ奥州
進發ノ爲ニ。一万餘人ヲ引卒シ。越前ノ敦賀ヲ立
佐和山ヘゾ着タリケル。三戌大キニ喜ビ様々ノ
饗應終テ後。奥ノ亭ヘ招キ寄傍ノ人ヲ遠除テ。二
人首ヲ寄セ私語ケルハ。世上ノ體ヲ窺ニ。秀頼公

ノ御事ハ有テ無カ如ク渡セ玉ヘバ眼前ニ是ヲ見
テ其儘ニ捨置シ事不忠ト云且ハ無念ノ至リナ
リ。假令事ナラズシテ骸ハ郊原ニ曝ス凡此義ヲ
天下ニ遺ナバ草葉ノ陰ナル先君モ嘸嬉ク思ラヌ。
今内府ノ威微ナルヲ討ズンハ後必ス大山ノ勢ヲ
ナシテシ。其時ニハ龍ヲ海ニ追虎ヲ山ニ獵ガ如
ニシテ。如何デ理ヲ得ン。其時ニ及ンテ臍ヲ嚙凡
益アラシヤト。忠ヲ君ニ標シ。姦ヲ人ニ讓辯ヲ逞
フシ。舌ヲ振テゾ申ケル。大谷聞テ首ヲ低テ暫ク
有テ云ケルハ。御邊ノ鬱憤一往其理アルニ似タ

リト云凡今ノ時節左様ノ事ヲ企テラルハ。石
ヲ抱テ淵ニ入。薪ヲ負テ燒野ヲ行ニ異ナラス。其
上先年諸大名ノ心ニ背カレシ砌リ。既ニ大事ニ
及ビシカ凡御所ノ首尾ヲ調ヘサセ。數ナラヌ某甲
等様々ニ取持テ事ナク。卿安穩ニ暮セルニ非ズ
ヤ。然ニ却テ如斯ノ企テ發レナハ遺恨アル輩ハ
必定敵ト成ヌベシ。惣ニ身命ヲ失ヒ。後代ニテノ
嘲リヲ取給ハンヨリ。會津ヘ發向セラレンニハ
如ビトゾ諫メケル。三成重テ云ケルハ。我此大事
ヲ企ル事全ク以テ我身ノ爲ナラス。聊カ君ノ爲

東國大正記卷之四

十一

東國大正記卷之四

十一

ニシテ。義ニ依テ命ヲ輕シ。恩ノ爲ニ身ヲ捨ハ。是
忠臣勇士ノ志ニナリ。丈夫ノ言再ビ万金ニモ
易ジト。不通切ニ色ヲ變ヒテゾ申ケル。大谷聞テ
其シ病身ナレト。遙奥州ヘ下ラント思フモ。天下無
爲ノタメナレバ。暴虎馮河ノ族ニ言ヲ盡シ。八十
佐和山ヲ出。濃州垂井ニテ趣キシカ。流石年月交
シ情モ今更捨カタク。垂井ニ。三日逗留シテ。平塚
因幡守ト相議シテ。種々ニ諫言シ關東ヘ下向有
テ然ルベレト。再ニ強テ申セトモ。三成終ニ承引セ
ス。吉隆心底ニハ染ザレト。日比斷金ノ契。今更約

ヲ變ジテ見放モ義士ニアラス。是非ナク三成ニ
與カシテ佐和山ヘゾ歸リケル。三成斜ナラス悦
デ則荷檐ノ輩ヲ増田右衛門尉長盛長東大藏太
輔家政。石田治部ハ其張本トシテ。相共ニ密談ヲ
ゾシタリケル。増田長東一同ニ倍如何計テ宜カ
ルベシ。先面々本國ニ引歸リ。籠城ヲヤ致スベキ
カ。但シ我々樞機ノ諸大名ヲ密ニ語フベシヤト。
軍談分明ナラス。時ニ治部以輔進出テ申ケルハ。
何茂ノ思策尤其理ナキニアラス。併ラ退テ愚意
ヲ廻スニ。一先諸國ヲ劫シ。大坂ヘ呼寄ズンハ事

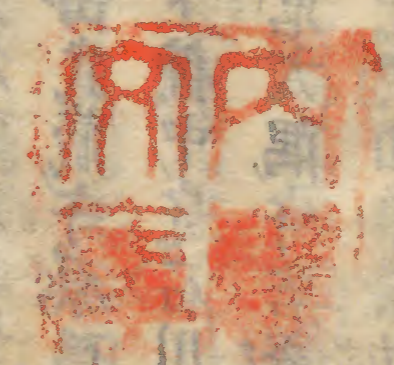
ナリガタカルベシ。其故ハ樞機ニ應ジテ來ル輩
ラハ本ヨリ我々ガ内證ヲ以テ言遣ス事ナレバ。
彼是ノ心底ヲ疑惑シテ有無ヲ明カニ説者有ベ
カラズ。諸方一度ニ馳集ルニ於テハ人ノ心自ラ
一統シテ秀頼公ノ忠戰致サル者ハアラジ。其上
秀頼公ノ御印ハ我等儘ナレバ表ニ公ノ印ヲ押
裏ニ我々承ハルノ連判ヲ以テ遣サンニ争カ遲滯
セシムベキ。此儀如何ト言ケレバ。一座同音ニ是ニ
過タル事アラジト。各評議下決シテスグニ密書
ヲ調ヘテ國々ヘゾ廻シケル。誠ニ當時ノ權ヲ高

レテ。斯ル奇怪ヲ企テ。諸士ヲ欺誑シテ己ガ身方
ニ引入ントノ謀コト不敵トヤセン。莫大トヤ云ン。治
部ガ無道類ナシ。眞實ガマレク偽文ヲ巧ニ則表
ニハ。秀頼卿ノ御判ヲ印裏ニハ治部刑部ガ兩判ヲ。
加ヘケレバ。是全クニ成ガ叛逆トハ知レテ同心ノ
面々在合タル諸侯大夫ハ言ニ及バズ。關東下向
ノ人々モ或ハ濃州尾碕ヨリ引返シ或ハ參河遠
江ヨリ直ニ佐和山ニ馳行モアリ。上方ノ騷動ハ
駭シクゾ聞ヘケル。是ニ依テ早速大坂ヘ馳集ル
人人ニハ安藝黃門元就同甲斐守秀元吉川駿河

守元春。岐阜中納言秀信。安國寺慧瓊。嶋津兵衛守
義久。同第中務少輔昌久。同又八郎忠恒。筑前中納
言秀秋。備前中納言秀家。長曾我部土佐守成親。同
式部卿法印鎮定。高橋右近長行。同九郎有馬修理
亮政純。垣見和泉守純昌。秋月三郎種長。相良宮内
少輔頼定。福原右馬助。伊藤民部。太輔祐慶。筑紫上
野介廣門。久留米藤四郎秀包。立花左近將監宗茂。
鍋嶋信濃守勝茂。太田飛騨守政信。熊谷内藏助直
陳。木村宗左衛門尉。堅田兵部少輔廣澄。宗對馬守
義知。毛利壹岐守勝信。同豊前守勝長。小川土佐守

祐忠。同左馬助。澤田武藏守。山崎左馬助。小野木縫
殿助。小西摂津守。行長。増田右衛門尉。長盛。長束大
藏。太輔家政。平塚因幡守。戸田武藏守。原隱岐守。宮
部兵部少輔。別所豊後守。木下備中守。石川掃部頭。
南條中書忠成。脇坂中書九鬼大隅守。吉隆多賀出
雲守。荒木平太夫。石川備中守。奥山雅樂助。大友宰
相義統等ヲ先トシテ。五畿七道ノ木名郡牧マテ
都合其勢十三萬三千八百餘騎。同年ノ七月十九
日ニ着到シ。大坂ノ城ヲ堅メケル。初三成ハ思
ノ儘ニ謀計ナリヌレバ。諸將ト相議シテ。關東ヘ

申し遣^{ツカハ}し其返狀ヲモ待^マスニ急^イギ軍談^タヲ究^キメテ
濃州關原へ出張セントソ勇^{ユウ}ミケル



東國太平記卷之四終

